

登山月報

オリンピックの夢、実現へ	1
2015年山岳スキー競技世界選手権大会報告	2
全国「山の日」フォーラム	3
平成26年度ジュニア・普及情報交換会報告	4
スポーツ指導者資格(ACとSC)の分離について	5
第75回 Mountain World	6
北から南からブロック便り	7
ボルダリングジャパンカップ2015	8
トラッドクライミングミーティング2014(その3)	9
JMA、寄贈図書、編集後記	12

オリンピックの夢、実現へ

国際スポーツクライミング連盟(IFSC)のマルコ・スコラリス会長が2月8日(日)～14日(土)にかけて来日した。

来日中は、9日に本会の最高顧問である衛藤征士郎衆議院議員、10日には日本オリンピック委員会(JOC)の竹田恒和会長、13日には東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の布村幸彦副事務総長を表敬してスポーツクライミングの現状を直接アピールした。

昨年12月8日の国際オリンピック委員会(IOC)の臨時総会(モナコ)で採択した「オリンピック・アジェンダ2020—20+20の提言」で、開催都市のオリンピック組織委員会が、1つまたは複数の種目を追加提案できる権利が承認された。これを受けて日本では、2020年の東京五輪にどの競技種目が追加参加できるのか、新春早々からマスコミを賑わせた。

野球、ソフトボール、空手道、スポーツクライミング、スカッシュ、武術太極拳、ローラースポーツ、ウエイクボードなど2011年のIOC理事会でノミネートされた競技種目のほか、ボウリング、ビリヤード、綱引き、ダンススポーツまで名乗りを上げた。この混沌とした東京の状況をIOCの本部では好ましく思っていない、とマルコ会長は語った。

競技種目の追加提案は承認されたが、オリンピッ



布村副事務総長を表敬

ク・アジェンダでは、選手総数10,500人、コーチ、サポート5,000人、種目数310などの枠組みが設定されているので、新たに参入させる競技種目の選定は、そう簡単ではないようだ。

スポーツクライミングの具体的な競技実施計画については「種目数、選手数はフレキシブルに弾力的に決めていきたい。」と語った。

マルコ会長は、スポーツクライミングの五輪種目参入は、50%以上の可能性をもって良いポジションにある。君たちは何%の可能性を持ってヒマラヤの頂を目指すか？ IOCと連携しながら粛々とアプローチしていけば、必ず夢は叶う、と語って離日した。

(記 尾形好雄)



JOC 竹田会長を表敬



衛藤衆議院議員を表敬

2015年山岳スキー競技世界選手権大会報告

2月5日から12日までの日程で山岳スキー競技世界選手権大会がスイスのスキーリゾート・ヴェルビエール周辺の山域で開催された。

日本から昨年の日本選手権大会で優秀な成績を収めた選手の中から藤川健選手、石橋恭選手、松澤幸靖選手が参加。さらに山岳ガイド養成校入学を目指してフランス滞在中の京屋仁君が急遽参加した。日本からの参戦が3名だと2人一组で走るチームレースと4人一组のリレーに参加できないことになるので、もう1人の選手をと、八方手を尽くして探したところ、長野県出身の京屋くんが手を挙げてくれた。京屋君は19歳でジュニアカテゴリーのレースに加え、チーム戦とリレーは松澤選手と組んで成年カテゴリーで出走した。

初日のスプリントは、標高差90mの短い急斜面を一回登り降りするだけのレースで20秒ごとに走者が出る形で予選が行われた。藤川選手、石橋選手、京屋選手が出場、順位はともに下位であった。京屋選手はジュニアの部で出場した。

2月6日、成年バーチカルレース。

ゲレンデの一部に巧みに作られた標高差655Mコースで最下部はスキーリゾート、ベルビエールの中心街の道路の半分に雪を敷き詰め、多くのギャラリーが見守る中、選手が走りぬけるという設定で、さらに最上部は雲海をバックに登るという素晴らしいコースであった。トップはスペインのキリアン・ジョネット・ブルガディ選手で、2位を大きく離しての勝利であった。数年前から彼の時代に入っているがいつまで続くか興味深い。日本人選手は、松澤選手74位、藤川選手75位(82名出走)

IOCスポーツ委員の視察もあった。

2月8日、バーチカルジュニアの部。

前日の成年レースの町中を抜ける最下部を省略した



コースで行われ、京屋選手はこの競技に初めて間もないのに頑張ってくれたが順位は出走25名中25位であった。

2月9日、大会4日目。

成年個人レース。天候に恵まれ絶好のコンディションの中でコースは総登行1700m、滑降1700m、途中3回のツボ足区間もあるダイナミックなコースで、松澤選手が2時間6分30秒(トップとの差38分17秒)、87名出走中74位。初出場で47歳の年齢を考えると大健闘といえる。藤川選手は2時間7分34秒、75位であった。尚、トップはスペインのキリアン選手でタイムは1時間28分12秒。

2月10日、大会5日目はジュニア個人レース。

京屋選手は24名出走で24位最下位だが完走してくれた。2月11日は大会の華ともいえるチームレース。登行標高差2289m、滑降2289mで、急なルンゼをスキーを担いで登るセクションが3回ある非常にタフなコースであった。日本からは2チーム、藤川・石橋の北海道組と松澤・京屋の長野組が出場した。

リザルトは、藤川石橋組31位、松澤京屋組32位(出走35組 完走32組)。

大会最終日は、恒例のリレーでスプリントと同じ



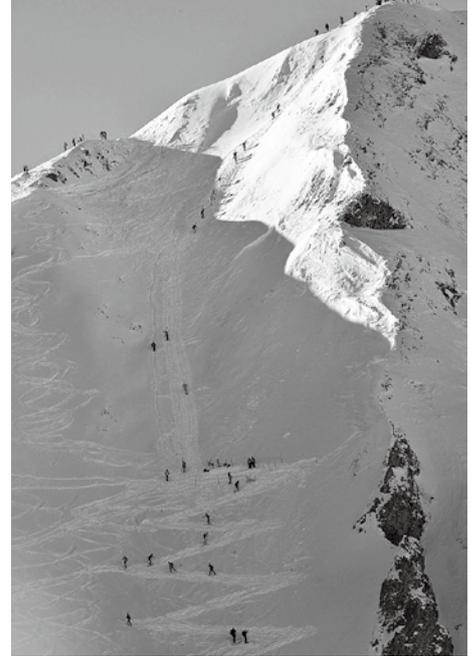
コースを使って行われた

前は男子3名のみだったので参加できなかったが、今回は京屋君の参加を得てリレーに出走できた。リレー参加登録は、12ヶ国で出走は11ヶ国。日本は最下位11位であった。

大会全レースの国別ランキングでは参加23ヶ国中19位であった。アジアから唯一すべてのレースに選手を出場させ、リレーにも参加して、存在感をアピールできたが、今回もヨーロッパ諸国との力の差を見せつけられた。

今回カナダ、アメリカからの参加選手が増えていたがカナダの監督によると、近年トレイルランナーのこの競技への参加が増えてきたという。日本でもこの傾向が表れるのも時間の問題であると思う。

今回の大会は、松澤選手、京屋選手の新人2名の参加を得て今後の日本での競技普及に大いに刺激になったのではないだろうか。松澤選手はアルペンや基礎スキーなどの分野で活躍されてきた経歴を持ち、白馬やスキー業界に幅広い人脈もあって今回参加の経験を大いに生かしてくれると期待する。すでに4月の梅池大



会の翌週に、白馬で日本初のバーチカルレースを企画主催してくれることになっている。京屋選手は、今回の経験を今後のガイドをめざす勉強の中に生かすことを考えているようだ。ヨーロッパには何人も日本人ガイドがいてそうした方々の中にもこの競技に対する興味を喚起してゆきたい。

(記 笹生博夫)



期 日 3月28日(土)10時～20時
3月29日(日)10時～18時
会 場 東京国際フォーラム
(最寄駅「有楽町」)
<http://www.yamanohi.net/forum.php>

28日—メインテーマ：「山の日」と「地方創生」—

- A.「山の日」から地域の活力が生まれる
- ①エコツーリズムでつなぐ山の恵みと人
松田光輝(知床ネイチャーオフィス代表)
 - ②ロングトレイルのすすめ
中村達(日本ロングトレイル協議会代表委員)
 - ③滞在型利用と外国人の受け入れ
上條敏明(上高地町会長)
- B.「山の日」から「新しい森林創生」が見える
- ①百年の森林づくりから始まる地域づくり
上山隆浩(岡山県栗倉村産業観光課長)
 - ②森林セラピーのすすめ
今井通子(森林セラピーソサエティ前理事長)
 - ③森・川・里から見る森づくり視覚障害者のための「森

の探検隊」川又正人(盛岡市在住林業家)

29日—メインテーマ：「山の日」と「山と自然の安全」

- C.「山の日」から「安全のための地域整備」を考える
- ①山岳遭難救助の現場から
宮崎茂男(長野県警察山岳遭難救助隊長)
 - ②登山届の現状とこれから
杉下尚(岐阜県危機管理部防災課救助・防災対策監)
 - ③消防防災ヘリコプターによる山岳救助(仮題)
中山義明(長野県消防防災航空隊消防隊長)
- D.「山の日」から「安全のための知識と方法」を考えよう
- ①子供達の自然体験活動と安全対策
石井弘之(成城学園中学高等学校校長)
 - ②登山者に必要な体力とトレーニング
山本正嘉(鹿屋大学教授)
 - ③山と自然の危機を考えよう
飯田肇(立山カルデラ砂防博物館学芸課長)
 - 登山家、タレントらによるトークショー
田部井淳子、三浦雄一郎、片山右京、小林綾子、野口健、平山ユージ、近藤謙司、KIKI、四角友里、なすび、花谷泰広ほか



平成26年度ジュニア・普及情報交換会報告

平成26年度ジュニア・普及情報交換会が、2月14日(土)国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催された。昨年は、近畿地方と関東甲信越地方を襲った観測史上最大の積雪の影響を受けたが、今回はほぼ予定通り、北は青森から南は鹿児島まで総勢29名のご参加をいただいた。

最初に神崎忠男会長から挨拶。日山協が公益社団法人となって2年目を終えようとしている。ジュニア・普及委員会は「公益」事業で最も大切な安全登山の普及と青少年の育成を担っている。今年度、各地で展開された活動を学ぶとともに、有意義な意見交換をしていただきたいと述べた。

群馬県 金子一実氏・小泉俊夫氏 「チャレンジキッズプロジェクトin谷川岳」

本来なら、昨年の情報交換会で講演していただく予定だったが、前述の大雪により交通機関が麻痺して来場できなかった。そこで今回は、昨年度発表予定の2013年活動と今年度2014年活動の両方を報告していただいた。夏は、一ノ倉沢・芝倉沢・マチガ沢での沢登りやクライミング、冬はスノーシュー体験や雪山に関する勉強会など多彩な活動報告と、今後の課題として5つの提言があった。

大分県 原勇人氏 「ジュニア登山教室in九重」

7月25日～27日の2泊3日の日程で、九重青少年の家を舞台に「ジュニア登山教室」を開催した。初日は登山の基礎知識や地図の読み方の講義。社会人山岳会も参考になるような充実した講義内容である。2日目は久住山を目指しての登山。12名の小学生全員が登頂できた。最終日は火おこし体験。一人で火をおこし、たき火を体験した。ジュニア登山教室は1泊の企画が多いが、2泊でしかも参加者12名のイベントを



運営するのは大変な苦労があったものと推察する。非常に参考になる情報提供であった。

NPO法人 自然体験活動推進協議会(CONE) 佐藤初雄氏 「自然体験活動の現状と課題」

会場の国立オリンピック記念青少年総合センターに事務局を持つ、CONE自然体験活動推進協議会から代表理事の佐藤初雄氏をお招きし、自然体験活動プログラムの企画立案からリスクマネジメントに至るまで幅広くご講演いただいた。特に、自然体験活動企画成功の鉄則：①下見は必ず行う②参加者への注意指示は怠りなく③天候判断は的確に④監視態勢の充実、は大変参考になった。各岳連の諸行事運営に是非役立てていただきたいものである。

日本山岳遺産基金 吉野徳生氏・湯浅陽介氏 「日本山岳遺産基金の活動」について

登山家・田部井淳子さんとの共同プロジェクト「被災した東北の高校生を日本一の富士山へ」の報告や、新たな認定地、認定団体；福島県吾妻山(吾妻山自然倶楽部)、長野県楯ノ峰(大町高等学校山岳部)、徳本峠(古道徳本峠道を守る人々)の紹介、2月28日に開催する「第5回日本山岳遺産サミット」の案内をいただいた。第5回日本山岳遺産サミットでは、5年間に及ぶ日本山岳遺産の振り返りが行われる予定である。

報告会後の懇親会には21名のご出席をいただき、各岳連(協会)で実践されている青少年育成事業の話題で大いに盛り上がった。来年度も「少年少女登山教室」をはじめとする多くの自然体験活動が各岳連(協会)で開催されることを切望する。

(記 青木秀則)

概要

スポーツ指導者の資格に関しては、アルパインクライミング(AC)とスポーツクライミング(SC)の2種類について、別資格として、養成講習会、検定会を実施し、専門科目の修了認定を行っているが、日体協のデータベース上では区別されていない。

今後もこのままの状態が続くと、日山協として独自のデータベースを構築しないと管理不能になる。また独自のデータベースで2重管理するのも事務処理の負担が重く、混乱を生じる恐れがある。

かねてより、日体協のデータベース上で区別できることを希望していたが、今般日体協より、「別資格として扱うことにより区別は可能」との回答を得たので、指導委員会と競技部で検討した結果、分離する方向で日体協に申し入れることになった。

新システム

1. 資格の種類

アルパインクライミングとスポーツクライミングを別資格として扱う。山岳とスキー両方の資格を持つようなケースと同様の扱い(マルチ資格)になる。

2. 登録料について(更新は4年に1回)

【初回登録時】

初期登録手数料+基本登録料+資格別登録料

【更新時】

基本登録料+資格別登録料

初期登録手数料	3,000円	資格取得時のみ
基本登録料	10,000円	新規登録時及び更新時
資格別登録料	2,000円	新規登録時及び更新時 ⇒競技団体に還付

※ACとSCでそれぞれ資格別登録料が必要になる。

(1)初めて資格を取得するケース

従来通り(初期:15,000円 4年ごとに12,000円)

(2)ACの資格を持っている人がSCの資格を取得する場合

(従来)新たな費用負担は生じなかった。

(今後)

資格取得時に5,000円(3,000円+2,000円)

更新時に14,000円(10,000円+2,000円×2)

※この場合、資格有効期限は、旧資格の期限になるので、資格取得時の資格別登録料は残りの有効期間に応じて案分される。(例:有効期間が残り2年間の場合、資格別登録料は2000円×2/4=1000円)

(3)現在、ACとSCの両方を保有している人

初期登録手数料は不要

次の更新時に、資格別登録料を2種目分(2,000円×2)を支払う

3. 国体監督資格について

国体の監督資格については、現行どおり「山岳競技資格」ということで条件にしておけば、ACの資格でも問題ない。

将来、SCの資格保有者がふえてくればその段階で「山岳(スポーツクライミング)資格」と明記して条件をつくれば良い。

4. 義務研修について

現在の資格者を割り振った時に、中には両方の種目の資格を持っている人がいる。その人がその時点で義務研修終了だった場合、両方を修了とする。

※義務研修に関しては、AC、SC共に都道府県体協の主催する研修会も認める方向で検討する。その他、細かい点でいろいろと詰める必要はあるが、分離する方向で作業を進める。

5. 新システムへの移行

SCの制度が発足した平成21年以降の資格保有者の資格リストを作成する作業が有り、かなり大変な作業となるが、順調に推移すれば、平成28年4月登録者より、新システムでの登録になる。

【参考】

平成22年度以降の指導員と上級指導員の専門科目修了者数を以下に示す。

H26年度は未集計だが、ACでは指導員と上級指導員併せて30名以上、SC指導員は50名以上が専門科目を修了している。

	AC		SC	
	上級	指導員	上級	指導員
H22	31	107	41	
H23	10	13	51	57
H24	59	77	7	134
H25	10	77	3	87
H22～25合計	110	274	102	278

第76回 Mountain World

セロ・トーレ二つの登攀

池田常道

「アメリカのワンダーボーイ」としてコリン・ヘイリーを紹介したのは2011年1月号だった。2008年にローランド・ガリボッチェと、セロ・トーレ岩峰群の初縦走(トーレ・トラバース)に成功するなど目覚ましい活躍を示していた若者も30歳を迎え、ベテランの域に入った。ヘイリーは、その後もほぼ毎年パタゴニアを訪れてソロを含むいくつもの登攀を行なってきたが、今季ひさびさにビッグ・クライムに成功した。

オリジナルのトーレ・トラバースはシュタンハルトからセロ・トーレへと南下するが、北半球では北壁に当たる各岩峰の南壁がすべて下りになる。逆に北上すれば、それらの壁を登攀しなければならない。というわけで、この北上ルートはノルウェーのビヨルン=エイヴィン・オルトゥンとアメリカのチャド・ケログが初めて試みた。ヘイリーも同年、ジョン・ウォルシュと挑戦した。ところが、オルトゥンはノルウェーで新ルート開拓中に落下したブロックに打たれ、ケログは翌年フィッツロイから懸垂下降中に落石で亡くなった。当時リバース・トラバース(逆縦走)と呼ばれたこのルートは、二人を偲んでLa Traversia del Oso Buda(熊と仏陀のトラバース)とスペイン語で呼ばれるようになった。Osoは熊を意味しBudaは仏陀を表わす。オルトゥンのファーストネーム、ビヨルンはノルウェー語で熊、ケログは仏教徒だったことによる命名である。

ヘイリーは、カナダの若手マルク=アンドレ・ルクレールと組んで、1月18日にセロ・トーレから縦走を開始した。まずコル・デ・ラ・エスペランサ(希望のコル)に上がり、19日に西壁フェラーリ・ルート(74年)からトーレに登頂。北壁を3ピッチ懸垂下降したところでテントを張って、日が陰って落氷が落ち着くまで待機。午後6時に再開してエガーとのコルの1ピッチ手前でビバークした。ちなみにこのコルは、1959年のチェザーレ・マエストリによって征服者のコルと命名されてきたが、彼がトーレ頂上はおろかコルにさえも達していなかったことが明らかになったいまでは、Col de la Mentira(嘘のコル)と呼び換えられている。

エガーへの登り返しは、オルトゥンが初登したVenas Azules(青い静脈)を登るが、岩壁を覆ったライ

ムアイス(霜氷)があまりにも分厚いので4ピッチで右へ逃げ、76年の初登ルートをたどった。頂上でビバークした翌日はプンタ・ヘロンを越え、シュタンハルトとのコルに下りた。シュタンハルト南壁はヘイリーが拓いたEl Caracol(蝸牛)が唯一のルートだが、ルクレールのリードで3ピッチのバリエーションを付け加えた。頂上に立ったのは夜の11時10分、下降途中で日付が変わり、22日朝5時BCに帰った。

それから2週間もたたない2月2日、ヘイリーは次の好天をとらえて、再びルクレールとセロ・トーレ北壁を登った。北壁は2005年にエルマンノ・サルヴァテッラら3人によって登られたが、そのときは征服者のコル(嘘のコル)から北西壁を経て頂上に立っていた。今回の二人は問題のコルから北壁そのものを6ピッチにわたってダイレクトに登った。ヘイリーによればここには、「きれいに割れたクラックが走っているが、1年の大半はライムアイスにおおわれている」という。ただ、降りそそぐ落氷だけは避けられず、ブドウ粒からゴルフボール大まで、落ちてくる氷のためにアックスを握る拳は傷だらけになったという。ルートは、征服者のコルの呼び換えに準じてDirecta de la Mentira(嘘のダイレクト)となった。



セロ・トーレ逆縦走。エガーへの登り返しは分厚いライムアイスに苦勞する(上)。最後の頂シュタンハルトの南壁バリエーションを登る、後方はフィッツロイ山群(下)。写真=コリン・ヘイリー

北から南から ブロック便り 北信越ブロック

平成26年度北信越5県 連絡協議会開催される

平成26年11月29日、定例の北信越5県連絡協議会が新潟県妙高市において開催され、各県から22名が参加した。以下は、その報告である。

まずは、日山協の理事会報告や国体関連の現況や今後の予定について、関係者から報告がなされた。

続いて、各県における最近の山岳関連の動向について説明があった。

富山県では、富山県山岳遭難対策協議会が「富山県立山室堂地区山岳スキー等安全指導要綱」を新たに制定し、安全対策を強化した。

この要綱では、4～5月及び11月に室堂から入山する場合①入山届の提出、②ビーコンの携帯を義務付けるとともに、適時適切な情報発信や現地指導・助言の強化等を定めている。

具体的には、室堂ターミナル内に設置した「入山安全相談窓口」に入山安全指導員が常駐し、入山届の受付、ビーコンの貸出、情報提供や指導・助言を行うこととしている。

今年の4月から実施され、4～5月は、1712パーティー(4582人)が届出をした。

長野県では、長野県山岳総合センターが作成し、長野県山岳遭難防止対策協議会が監修の「信州・山のグレーディング」～無雪期・天候良好時の「登山ルート別難易度評価」～を公表した。これは、登山者に対して



安全登山のための啓発活動の一つとして、長野県内の一般的な登山ルートから選定した100ルートについて、体力度と登山道の難易度を評価したものである。マトリクスと一覧表にして、長野県山岳総合センターのホームページに平成26年6月から載せている。また、この山のグレーディングについて、長野県は近隣の新潟県、富山県、山梨県、静岡県、岐阜県、群馬県に歩調を合わせるよう呼びかけをした。新潟県では、平成27年度に公表予定で、新潟県山岳協会と協議中である。

また、長野県山岳総合センターは、平成27年度に登山者の体力測定(ある標高差の登山道をどのくらいの時間で登れるか、その要した時間で登山者の体力レベルを推定する)や高齢者に絞ったトレーニングと登山講習会などの実施に取り組む予定だ。

5県のトレイルランニングの開催状況についても情報交換を行った。登山者との接触や登山道無視の事例もあり、ルール作りが必要ではないかとの問題提起もなされた。

新潟県山岳協会からは、飯豊山の縦走路で、心臓マッサージと山小屋に設置されていたAEDの装着により、心肺停止の登山者を蘇生した事例が報告された。日頃からのAED訓練の必要性を再認識させた事例であった。

このように各県から毎年新たな情報が提供され、各県岳連、各県山協の活動に資する有意義な会議となっている。(記 新潟県山岳協会 遠藤俊一)

新賛助会員のご紹介

3月8日(日)に開催された平成26年度理事会(第4回)で以下の賛助会員の入会が承認されましたのでご紹介します。

賛助会員(団体)：株式会社 牛走運送
賛助会員(個人)：佐々木義博氏(山形県山岳連盟)

ネパールへ行かれるなら
風の旅行社名古屋にお任せ下さい

ご友人同士、ご夫婦等、あなただけのオリジナルプランをご提案いたします。勿論、現地では日本語ガイドががっちりサポート！是非、お気軽にご相談下さい。

株式会社 風の旅行社名古屋
愛知県知事登録旅行業第3-1367号 日本旅行業協会正会員
総合旅行業務取扱管理者 古谷 朋之
〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-12 サカエ東栄ビル6F

TEL 0120-987-321 FAX 052-228-6232 e-mail nagoya@kaze-travel.co.jp

憧れのジョン・ミュア・トレイルを歩いて米国本土最高峰の頂きへ

限定8名様 米国本土最高峰 Mt.ホイットニー登頂 10日間

発着地 東京 出発日 8/18(火)・9/1(火)

旅行代金 ¥684,000～¥748,000
※燃料サーチャージ(2015年2月20日現在：目安約28,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/JTF保証会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

キョーリン製薬グループ presents ボルダリング Japan Cup 2015

今大会は、男子104名、女子45名のエントリー。予選はいずれも課題5つ、A B 2グループに分かれて行われた。予選からトップ選手を意識した課題も多く、男子、女子ともにゼロ完登が1 / 3ほどでた。

準決勝では女子で大波乱が起きる。女子の準決勝、最終課題（第4課題）で時間が迫るなか野口啓代が観客に向かってもっと声援をという手を振ってのアピールをする。スラブ状の壁に設定された横へのラウンジに苦しむ野口が見せたパフォーマンスだ。しかしそれもむなしく野口の10連覇が消えていく。一方今年のワールドカップで大ブレイクした野中生萌もゴールに迫るが完登ならず。この課題は20人中7人が完登している。優勝候補の2人が登れず敗退となる。結果田嶋あいか、尾上彩、大田理裳、戸田萌希、加島智子、小林由佳が決勝に進出。男子は杉本怜、山内誠、中野稔の予予想通り組と榎崎智亜、渡部桂太、沼尻拓磨の若手が決勝進出を決めた。

女子の決勝では田嶋あいかが優勝。戸田、尾上、小林が1完登のなか、ただ一人3完登の見事なパフォーマンスであった。メディアのインタビューでは「奇跡だと思っている。何が起きたかわからない。」などと答えていたが第3課題のトラバースからマントル、最終ホールドへの登りは素晴らしかった。一方男子は、課題が厳しく2完登の杉本が優勝。ここ直近の大会で彼は第7回が6位、8回が4位、9回が2位と順当に順位を上げてきた。今回の優勝は引かれたレールの上にあったのかも知れない。来年は男子の連続優勝への期待がかかる。



ボルダリングジャパンカップは、今回で10回の開催となる。「そうやって登るんだ」「ウォー」と選手が繰り返すパ



フォーマンスに観客が声を上げる。昨今のボルダリングの課題は、非常に創造的であり、選手も発想を豊かにしないと手も足もでない。そしてそれを自分のものにした選手のムーヴは、シルクドソレイユのように人間の限界を押し広げるようで観客に感動を与えるほどだ。ボルダリング競技が始まった時、誰がここまで考えたのだろうか。セッター陣のセンスに「いいね!」と言いたい。また、今回多くのメディア（6社）、が番組収録やニュース映像の撮影に来ており、オリンピックへの可能性に繋がればと感じた。

但し、運営に関しては反省点が多い。準決勝、決勝は観客（チケット販売308枚）から観戦料を頂きながら観戦環境が悪い。観戦料を払いながら映像で見られないお客様はどう思ったであろうか。またスポンサーメリットはどうだったか。安全面での対応も十分でなかった。ここに詳細はあげないが、主管団体として大会の準備不足といろいろなコンテンツをまとめコントロールできなかったとして反省している。最後に、ご協賛頂いたスポンサー様にお礼申し上げますとともに、ご協力頂いた施設並びに役員の皆様に感謝を申し上げます。今後ともこの大会が隆盛に開催されることを祈念申し上げます。

成績			
男子		女子	
1	杉本 怜 (東京都)	1	田嶋あいか (三重県)
2	渡部 桂太 (三重県)	2	戸田 萌希 (山梨県)
3	榎崎 智亜 (栃木県)	3	尾上 彩 (埼玉県)

(*詳細はリザルト参照)

主 催	(公社) 日本山岳協会
主 管	埼玉県山岳連盟
特別協賛	キョーリン製薬ホールディングス
協 賛	マムートスポーツグループジャパン 好日山荘
協 力	深谷クライミングビレッジ 深谷市山岳連盟、博報堂DYメディアパートナーズ、スカイエー、DJ (ジャジースポーツ)

(記 埼玉県山岳連盟副会長 村岡正巳)

IL SIGNORE NERO 6a+ フラッシュ

凹角のハンドジャムから始まり、上部で左上するワイドとかオフィズスのようなになる30mのルート。ワイドが始まる部分にボルトが1本ある。ガイドのウンベルトはレイバックで越えていたが、フィストジャムと右足のヒールアンドトウが決まる。キャメロットC4の4番、5番を使ったが、なかなか面白いルートだ。

IL SENSO DELLA VITA 6c+/7a トップロープでテン山

フェースからスラブのボルトルート。ヤスパーがリードしたのを見ていると下部はパワフル、上部は細かくテクニカルという感じで、自分には明らかに無理と思ったが、グレード感を確かめるためにトップロープで登らせてもらった。下部はボルダームーブがこなせず右から木をつかんで上がり、上部も細かくてカンテを使っても自分の実力では無理だった。

ヤスパーはヨセミテに何度も行ったことがあり、サラテ、シールド、ゾディアック等のビッグウォールを登っているそうだ。

ELISER D'INCASTRO 6b+ トップロープ

フィンガーからハンドとなり、小ハンクをフィストで越えていくお勧めルート。ヤスパーがまず登り、上部でとても印象的なムーブ(あえて伏せる)が出てくる。アンダースはハンク部分がこなせずにA0でこえる。見た感じでは登れそうだったが、先のルートの事もあり、迷ったがトップロープとした。登ってみたら、ジャミングが良く決まり簡単であり、体感的には5.10bくらいだろうか。

L'AVVENTURIERO 6c+ トップロープ

ウンベルトがかけたトップロープにヤスパーも苦戦していた。下部のクラックは難しくなく、中間のテラス

から先で、ボルトにクリップした後からが大変だった。ムーブはわかるが、結局つながらなかった。指の入らないフィンガーの先のカチを保持して引きつける力が必要なだろう。

L'ULMA FOLLIA DI SIR BISS 6c トップロープ

オフィズスのルート。本来もっと長いルートなのだが、15mほどで左に曲がり、隣のルートの支点を使ってトップロープで登る。チョックストーンにスリングが巻かれ、ヌンチャクで支点を取ることができる。しかし、ウンベルトはチョックストーンを持たずに登るようにトライし、勧められてやってみるがチョックストーンをつかむかレイバックでもなければ越えられそうもなくあえなくテンション。オフィズスを抜けた中間のテラスから先は楽しいチムニー登りで、大きなチョックストーンの脇にカムを決めることができる。ヤスパーも苦勞し、他の二人は登らず。明日の天気が悪い予報で、遅い時間まで登り、19時に戻り、19時半から昨日と同じレストランで食事した。体育館のようなところに移動し、21時よりオルコ谷のクライミングの歴史と最近登られたループの課題のスライドショーがあった。言葉がわからず、皆が笑うところで笑えないというのは少しさびしい。日本ではトップロープで登ることはほとんどないが、今日は無理をしてけがをしてもつまらないという意識が働いた。

9月17日

予報通り天気が悪く、ガスが立ち込めていた。ミーティングは中止となった。スポーツクライミングや買い物に行く人もいたが、レストとしてメールチェックをしたり本を読んだりのんびり過ごす。同室のノアンは、さかんに「タダアキ」と話しかけてきて、日本語でSmileと

は何て言うのか?などと聞いてきて、スマホで彼女とチャットしていた。

夕食は中心地の別のやや高級なレストランに行



左より、L'ULMA FOLLIA DI SIR BISS 6cのオフィズス、ループのLegoland(2P)7b+1Pも好ルート、IL MAIALONE 6a+を登るノアス

く。会話が苦手なのでトポを持参し、アンドレアというローマから来たイタリア人から BOSCO という雨が降っても登れるエリアの話聞く。また、イタリア語しか話せないホストのルチアーノさんとは、筆談交じりに日本からどれくらいの時間がかかったかということの説明する。こんなことでも楽しめればよいのだろう。

9月18日

昨日よりも雨が強いが、大勢の人とともに BOSCO で スポークライミングに行った。Genies という堆積岩で、宿舎から車で30分、徒歩3分の岩場だ。かぶっていて壁の途中でルートが終わるので濡れずに登れる。主に1ピッチ、中には2ピッチのルートがある。

はじめは同室のノアンと登ろうと話していた。登れそうなルートは壁の左の方にかたまって混雑していた。しかし、壁の全体像を見ようと歩いていたら、ロープを持っていないというポーランドのヤツェックが右の方のルートを勧めてくる。トップロープで登りたいようだ。

LA PANSA 6c 3回目で RP

下部がぬれているので VIA DI MEZZO6c+ よりスタートする。中間で左にトラバースし、LA PANSA に合流する。湿度も高いしヌンチャクかけと思って1便目は無理せず様子見とした。ボルト間隔も近く、核心のホールドは遠いが大きく、リーチがあるので2度目のトライではダイナミックに反動をつけてキャッチした。しかし、抜け口で手ばかり先行して足を上げることができず、力尽きてしまった。3回目で登れたので、日本と同様で5.11a位だろう。

VIPER 6b+ フラッシュ

ホストのレナルド(60歳くらい?)が先に登りヌンチャクをかけ、ビレイもしてくれた。簡単そうに登っていたが、上部のスラブでは微妙な立ち込めもある。最後は被ってきて、先のルートで疲れていたのが結構厳しかった。終了点へのクリップでジャミングを使う。

MAMBA 6a フラッシュ

ヤツェックが先にのぼり、その後にとりつく。下部のフットホールドがぬれており、そこは緊張させられた。

BALLA COI TOPI 6b フラッシュ

このルートから上部の7aのルートへリンクして登る人が多く、その合間を縫って登った。プリクリップして登る人もいるが、下からかけてリードした。1ピン目は届くが、2ピン目のあたりは確かに微妙だった。中間部

PORTA 峠から
Lillit 湖への下り



からクラックに入れば、あとは簡単になる。

夕食は宿舎の向かいのバーの2階でとり、前回と同じ体育館でイギリスのアンディターナーのスライドショーがあった。学校の先生をしているというが、とても厳しいボルダームーブをこなしており、実力のほどがうかがわれた。

9月19日

また今日も雨で、さすがに今日も Bosco に行くのは2・3人のみで、他は買い物に行ったり、レストする人が多いようだ。前2回の開催時は天気が良かったそうなので、9月は良い季節のはずだが、今回は残念だ。小降りなので標高3000mのPorta 峠を越え、ぐるっと1周するハイキングに出かけることにした。一緒に行かないかと誘う人もいたが、マイペースで歩きたいと小雨の中を一人で出発する。標高1500mの宿舎の前からすぐにトレイルに入り、樹林帯を抜け Sia 峠に至る。滝や湖の跡が、なかなか景色がよい。その先、小屋への分岐を過ぎて急坂を登るあたりはガスとなり長く感じ、手も冷たくなってくる。途中で2か所残雪が残り、20m、10mほどトラバースがあった。Lillit 湖の下りではガスも晴れ、緩やかなところを小走りで下る。湖からもう一つ峠を登ろうかとも思ったが、またガスも出てきたし無理せず下ることにした。下りは急坂で、石にペンキで多数のマークがあつて迷うことはない。道路に出て歩いていると、ホストのルチアーノさんがいて、車で宿まで送ってもらうことになった。この人はイタリア語しか話せずコミュニケーションが難しいのだが、歓迎してもらっている雰囲気は伝わってくる。カフェでしばし歓談し、彼の持つサイン帳にサインしてきた。

夕食はRefugio Millaより上流のレストランに行き、鱒の煮たものと野菜の卵とじがおいしかった。

コースタイム

10:15ミーティングハウス発～10:20trail head～
11:25Col del Sia～12:05分岐～13:45-13:50 Col dell
PORTA～14:10-14:20 Lago Lillit 分岐15:45 Mua

9月21日

昨夜まで霧だったが、朝には久しぶりに晴れた。今日はグループ分けもなく、勝手に登ってくれということになった。SergeantやCaporalへ大勢行くようだったが、同室のノアンに誘われ、DaDo(サイコロという意味)へ行くことにした。トポではお勧めルートが数多くあり、気になっていたところではある。後からイスラエルから来たバレリとエリの2名もやってきた。後に確認したら、他のメンバーは大勢でメジャーな erephant ear などの有名ルートを登っていたようで、むしろ自分にとっ

てはこちらでよかったと思う。

APOGEO 5c+ オンサイト

15mほどの短いルートで、ハンドが良く決まり、アップに良い。ノアンはカムの練習だと言って、カムを決めては何度も墜落を繰り返した。改めて聞いてみると、イスラエルにはクラックの岩場はないということだ。

MISTER GREEN 6a オンサイト

長いチムニーだが、クラックで支点も取れるのでランナウトはしない。最後はアンダーフレイクから左に抜ける。35mとトポにはあったが、60m ロープで下降できる。

BIANCA PARETE 6b+ オンサイト

右上するフィストジャムが核心のルート。ワイドハンドもききそうな幅であり、傾斜もないことから一見難しそうには見えない。しかし、トポには初登時6aと発表されたが現在はもっと難しいと考えられており、時には6cという人もいと記載がある。確かに登ってみると決めにくいフィストジャムで、手のサイズによりグレード感異なるだろう。現地でリードした最高グレードとなった。得意系でもあり、体感的には5.10c位か。

IL MAIALONE 6a+ オンサイト

取付まで上がるのに一苦勞で、ビレイヤーも注意が必要。クラック沿いにのぼり、途中で左へトラバースし、最後は右へ回りこんで越える。

CHOISE 2ピッチ目 6b オンサイト

中間のダブルクラックの手前でボルトが1本あるが、なくても支点が取れる場所はある。ダブルクラックをうまく利用できた。最後の抜け口がぬれていたが、傾斜もないので全体に足をしっかりと置けば大丈夫。

CHOISE 1ピッチ目 5c オンサイト

下部は濡れており、いまひとつぱっとしない。出だしは細く中で割れたクラックなので、ナッツの方が良かったかもしれない。一通り登り、あとは高難度のフェースになるので帰路についた。しかし、ノアンがジャケットを忘れたと言って取りに戻り、時間をロスする。今日は最終日なので時間内に戻るように言われていたのに少し焦ったが、車で通りかかったホストのクラウディオが送ってくれた。

夕食はRefugio Millaですごい肉の量を食べ、また体育館に移動し、コンサートとなる。自分でも知っている「Born to be wild」等を皆で歌い、踊った。

9月22日

ミーティングが終わったので、朝食はない。10分ほど歩いた下のホテルで朝食をとる。

半日くらい登りたいということで、地元の方に聞いた



最終日はダンスパーティー

らマルチではあるがNAUTIRUSがお勧めだという。登山口まで送ってもらい、ガレ場を登って取付に至る。今日は休日ということもあり、先行パーティーがいて、隣のルートにも取りついており、にぎやかだ。

NAUTIRUS 6a

1p ~ 2P、フォロー

やや被った広いクラックからスタートする。テラスでも区切れるが、やさしいので先へ伸ばした。

3P オンサイト

先行パーティーは左のチムニーに入っていたが、年配のクライマーが支点を取れずに動けなくなっていた。自分は何も考えずにかぶったダイヒードラルを登って行った。クラックが閉じているところにはピトンがあり、ところどころカムも決められる。抜け口がやや微妙だが、乗り越してからはスラブに支点が取れそうもないので右の土の上を進んで立木でビレイ。歩いていくと先日登ったL'AVVENTURIEROの終了点となり、60m 1本のロープで懸垂下降できた。下降のためシングルロープ2本で登っていたのだが、不要だった。降りて少し下った所に岩の割れ目があり、奥に進んでみると先ほどビレイしていた人が、チムニー内でナッツを落としていたので投げて渡した。トポの写真にも掲載されている有名なチムニーで、下をのぞくと高度感があった。

帰りはヒッチハイクを試みるがつかまらず、朝食をとったレストランで遅い昼食をとって一休みし、結局宿舎まで歩いて帰った。16時半から車でトリノに送ってもらったが、渋滞もあり2時間半ほどかかった。ホテルを探してもらい、翌日バスでミラノ国際空港へと移動した。やはり緊張して疲れていたのか、飛行機のシートについたら離陸したことにも気が付かずに熟睡してしまった。

7. 雑感

マルチピッチのビレイ点はボルトで整備されており、シングルピッチのルートも、ビレイステーションかマイロンがある。

一部しか見ていないが、ホストと組んで登るわけではなく、むしろ案内役としての位置づけのようだった。

谷沿いに岩場が点在し、いずれも駐車場から徒歩5~20分程度と近い。傾斜がなく、むしろ中級者向きの岩場なので、日本からもっと多くの人が参加しても良い

のではないだろうか。

出発前にベストコンディションではないと伝えたが、ベストを尽くせばよいといわれ、気持ちが楽になった。楽しむということに大事にしており、小さな村全体で歓迎している雰囲気がありとても良かった。

ルート名がイタリア語なので覚えにくく、今日はどこを登った？ と聞かれてもトポのナンバーならともかく、すぐにルート名を答えられないことが多かった。

限られた人の登りしか見ていないが、ジャミンググローブを使用する人が多く、逆にギアラックを用いずハーネスにカムをぶら下げる人が多かった。

ミーティングだけでなくクライミングツアーの一環で参加する人も多く、はるばる日本からこのミーティングのためだけに来たのかと驚かれることもあった。

聞く方は3割くらいしか理解できず、話す方は1割程度しか伝えられなかったと思うが、特段支障にはならなかった。

トラッドクライミングミーティングに先立ち、Orco Blockというボルダリングイベントが3日間開催されていたので、興味がある方は両方参加しても良いだろう。

参加者やホストはファーストネームで呼び合い、とてもフレンドリーな雰囲気であった。夕食時にはイベントとして、毎晩のように1kgのチョコレートのブロックが数人にプレゼントされた。表彰理由は、最年少参加者、最高齢参加者、救助に協力した人、寒いのに湖で泳いだ

馬鹿な奴、etcなどの様々な理由で、皆で表彰式を楽しんでいた。私も「雨の休日に良くあるいたで賞」ということでもらうことができた。自分は2011年に同じイタリヤ北西部のクールマイユール起点で行われた330kmのトレイルランニングレースのTor Des Geants(トルデジアン)を完走していたこともあり、翌日にはイタリア人ホストから握手を求められた。

2月にこのトラッドクライミングミーティングの事を知り、直感的に楽しそうだと実力もかえりみずに手を上げたところ、他に参加希望者がいなかったのですぐに決まった。しかし、出発が近づくにつれ「日本代表が、本当に自分でいいのだろうか？」と悩むこともあった。クライミング・英語能力の不足は言うまでもなく、直前には腰痛が再発し、期待より不安の方が大きいくらいだった。結果は、語学力の不足は痛感したが、景色の良いところで比較的簡単なルートを楽しんで終わった。「日本代表」としては、日本のルートを十分に紹介したり、日本人クライマーの強さを見せつけられなかったのが少々心残りではある。1週間以上にわたり外国人と暮らし、日本語も話さないというのは、貴重な経験だった。最後になるが、このような機会を提供していただいた日本山岳協会に深く感謝したい。また、この報告書が次回参加者の一助になれば幸いである。私も再訪したいと強く思っている。(おわり)



平成26年度2月(27年2月) 常務理事会報告

日時 平成27年2月5日(木)
17時40分～20時50分
場所 岸記念体育会館103会議室
出席者 八木原・國松・佐藤副会長、
尾形専務理事、小野寺、西内、仙石、
森下、京才、瀧本、青木各常務理事、
中島監事
委任 神崎会長、水島常務理事
(理事13名11名出席)

1. 議事

- (1)平成26年度1月常務理事会議事録の承認について
異議無く承認された。
- (2)平成27年度事業計画案及び収支予算案の承認について
一部予算の復活折衝の提案があり、2月26日の常務理事会で再度承認を諮ることで了承された。
山岳共済会予算案に関して、中島監事より共済会の意思決定組織、規則、業務委託方針、議事録作成、幹事会のメンバー構成などの整備を早急に実行し、山岳共済会のガバナンスを確立するよう指摘があった。
- (3)平成28年勲章及び褒章候補者の推薦について

役員歴20年以上の対象者を事務局でリストアップし、2月26日の常務理事会で審議することで了承された。
(4)平成27年度自然公園指導員表彰候補者の推薦について
候補者の推薦を自然保護委員会に一任することで承認された。
(5)平成26年度JOC女性スポーツ賞候補者の推薦について
遠藤由加氏を推薦することで承認。
(6)平成26年度後期海外登山奨励金交付登山隊の承認について
選考委員会で選考した「TASABRAKKA JAPAN EXPEDITION 2015」登山隊に奨励金(40万円)を交付することが承認された。

(7)報告

ア 会計月次報告

小野寺常務理事より資料に基づき1月末までの貸借対照表、正味財産増減計算書内訳表について報告がなされた。中島監事より予算が税込み表記なのだから実績も税込み表記にすべき、との指摘があった。

イ 和歌山国体準備状況について

京才常務理事より資料に基づき和歌山国体の準備状況が報告された。尚、

本日(2月6日)みなべ町の小谷芳正町長が表敬に来局された旨、報告された。

ウ 全国「山の日」フォーラムについて
尾形専務理事より、全国「山の日」協議会が主催する全国「山の日」フォーラム(3/28～29)への本会の協力について要請があった。

エ 代表者会議について

尾形専務理事より代表者会議の議事次第及び議事進行等について報告があった。

オ AC、SC資格分離について

瀧本常務理事より12月常務理事会に提案したAC、SC資格分離について競技部の了解が得られたので次回常務理事会に再提案したいと報告があった。

カ IFSCの動静について

尾形専務理事より2/8～14にかけてIFSCのマルコ会長が来日して、JOCや東京五輪組織委員会などを表敬することが報告された。

2. 役員等の派遣について

(1)山岳スキー競技世界選手権2015

2月3日(火)～14日(土) 於:スイス
笹生団長ほか選手4名

(2)衛藤征士郎議員表敬 2月9日(月)

於:衆議院第1議員会館 尾形専務理事、小野寺常務理事、小日向副委員長、(マルコ会長)

- (3) JOC 竹田会長表敬 2月10日(火)
於: JOC 八木原副会長、尾形専務理事、小野寺・森下常務理事、小日向副委員長、(マルコ会長)
- (4) ジュニア普及情報交換会 2月14日(土)
於: 国立オリンピック記念青少年総合センター 神崎会長、八木原副会長、西内・青木・仙石常務理事
- (5) 平成26年度代表者会議
2月15日(日) 於: 日本青年館ホテル 神崎会長ほか
- (6) 国立公園におけるトレイルランニング大会等の取り扱いに関する説明会
2月17日(火) 於: 新宿御苑インフォメーションセンター 八木原副会長
- (7) 第3回火山防災対策推進WG
2月18日(水) 於: 中央合同庁舎8号館 尾形専務理事
- (8) 第5回火山情報の提供に関する検討会
2月18日(水) 於: 気象庁 尾形専務理事
- (9) JOC アントラー・フォーラム
2月18日(水) 於: 味の素ナショナルトレセン 森下常務理事、中川事務局長
- (10) JOC スポーツと環境担当者会議
2月19日(木) 於: 味の素ナショナルトレセン 松隈副委員長
- (11) 第10回ボルダリングジャパンカップ
2月21日(土)~22日(日) 於: 深谷クライミングヴィレッジ 神崎会長、森下常務理事、西原・北山・山本委員長
- (12) 関東地区山岳連盟連絡協議会総会
2月21日(土) 於: 栃木県・宇都宮 神崎会長
- (13) 山岳団体自然環境連絡会
2月26日(木) 於: 労山事務所 石倉委員長、松隈・徳永両副委員長
- (14) 第53回海外登山技術研究会
3月7日(土)~8日(日) 於: 国立オリンピック記念青少年総合センター 神崎会長、澤田委員長
- (15) 平成26年度理事会(第4回)
3月8日(日) 於: 岸記念体育会館 神崎会長ほか役員
- (16) スポーツ安全協会評議員会
3月18日(水) 於: 東海大学校友会館「富士の間」 神崎会長

3. 後援、協賛等の依頼について

- (1) 百万人の山と自然「安全のための知識と技術 公開講座」の後援名義使用(日本山岳ガイド協会主催)(回答済み)
- (2) 第3回広島県クライミング選手権大会 CERO ボルダーコンペ2015の後援名義使用(広島県山岳連盟主催)(新規) 尾形専務理事より資料に基づいて説明があり、同大会の後援名義使用が承認された。
- (3) 日本山岳写真協会展「2015 一山・われらをめぐる世界」の後援名義使用(日本山岳写真協会主催)(回答済み)

4. 報告

- (1) 自然保護指導員の承認 なし
- (2) 指導員の認定承認
- ① AC 上級指導員
 - ・ 日山協: 河内尚志、河上清美(以上、東京2名)
 - ・ 千葉県: 平野直子

- ・ 埼玉県: 横内鉄郎、藺田明、沼田真澄、長田一樹、藤森久美
- ・ 宮城県: 太宰智志、吉田岳、山崎弘善以上、11名の認定が承認された。
- ② AC 指導員
 - ・ 石川県: 三上貴子、豊田由希子
 - ・ 茨城県: 佐藤常雄、上田俊一、梅原郁夫
 - ・ 埼玉県: 伊藤正孝、中川一芳、町田賢人、笠原数浩、本村貴子、関真由美、秋元淑子、田中利洋、町田幸枝、稲田真、稲田千秋
 - ・ 東京都: 川崎恵美子、財津吉晴以上、18名の認定が承認された。
- ③ SC 指導員
 - ・ 福井県: 花村岳史、西川義則、中山佳丈、坂東美紀、坂東知範、堀川豊和、宮川宣朗、藤沢要樹、館田寛、斎藤明哉、山崎郁代、島津雅一、曾我陽一、山越政樹、岩川浩之、小島一剛、渡辺訓臣、竹井康祐、山本智博、田中孝治、中島陽子
 - ・ 兵庫県: 渡邊豊、浦裕明、小倉圭子、西田登、前川宏樹、宮田尚文、溝田寛人、柴田武志、林弘一、大谷直樹、松本睦、山下敏光、正田信一、島田孝司、亀田幸子、大西幸次
 - ・ 大分県: 畑中郁夫、門脇哲史、山本樹理、笠置太、古川昭寛、一色浩幸、柳井卓也、松永美穂、一之瀬将、有墨誠治、山本辰太郎、林田明美、山本一憲、原勇人
以上、51名の認定が承認された。

5. 専門委員会動静

- 1月常務理事会以降(1月9日~2月4日)
- [報告]
- (1) 指導委員会
1月13日(火) 出席者14名
ア 12月常任委員会議事録の確認
イ 12月、1月日山協常務理事会報告
ウ 全国スポーツ指導者連絡会議(12/12)報告
・ 受講管理システム: 平成27年度要請講習会より稼動予定

- ・ 倫理規程・処分規程について
- ・ スポーツ指導者登録者数の経緯
- エ 指導常任委員研修会報告
・ 12/13~14、神奈川県山岳スポーツセンター、参加者6名
- オ 平成27年度指導者養成講習会アンケートについて(12件回収)
カ 常任委員の増強
・ 木下佳哉子(都岳連・YCC所属)
- キ 指導常任委員研修会(1/31~2/1、谷川岳)について
- ク 氷雪技術研修会(2/13~15、大山)について
- コ 指導・競技合同会議(3/12、都岳連事務局)について
- サ 氷雪技術研修会(4/25~26、富士山)について
・ B級は実施しない
- シ 指導・遭対合同会議(6/20~21、熱海)について
- ス SC主任検定員養成講習会(7/10~12、昭島)について
- セ 平成27年度登攀技術研修会(11/21~22、丹沢、神奈川岳連主管)について
- ソ 指導関係出版物の在庫確認について
- タ 規約改定について
- (2) 国際委員会
1月13日(火) 出席者10名
ア BMC International Summer Climbing Meet 2015の派遣について 神林裕(東海山岳会)、増本亮(同人クライミングファイト)の両名で常務理事会承認済み
イ 平成26年度後期海外登山奨励金の公募について
Tasa Brakka Japan Expedition 2015の1隊のみの申請、審議中
ウ キルギス山岳会からの「Mountain Spirit Project 2015」への招待について
エ ロシア女性クライミングミート事前来日について
・ 経費の問題で、来春(2016年)に延期
オ 平成27年度事業計画及び予算について

寄贈図書

寄贈本	深田久弥山の文化館	「ONE HUNDRED MOUNTAINS OF JAPAN」Martin Hood 訳
	山と溪谷社 久保田賢次	「ヤマケイ新書 もう道に迷わない」
雑誌	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.813
	山と溪谷社	「山と溪谷」No.959 2015 March
会報	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第411号
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第572号
	NPO日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト	「HAT-J NEWS」No.96
	横浜山岳会	「月刊山」992号
	la rivista del Club alpino italiano	「Montage 3 6 0」gennaio 2015
	神奈川県山岳連盟	「ときわ木」167号
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBC news」第519号
	埼玉山岳連盟	「埼玉岳連」第50号
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2015.2.10 No.304
	大阪 青雲会	「青雲」No.62号 2014年12月
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol. 194 2015 February
	加藤隆弘 パナソニック山岳会	「道標」22号
	モンベル	「OUTWARD」No.67
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.481
	中国登山協会	「山野 中国戸外」2015 02
	やまびこ山想会	「やまびこ」第158号
愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」27年1月27日 第411号	
東京野歩路会	「山嶺」2015.3 No.1020	
(公社)日本山岳会	「山」2015 2月号 No.837	
(株)スクールパートナーズ	「高校生新聞・高校生スポーツ」第224号	
(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース」「体協フェアプレイニュース」2015年2月23日号	

カ 第53回海外登山技術研究会について
3/7～8、国立オリンピック記念青少年総合センター

キ 平成27年度国際委員総会・第34回海外遭難対策研究会について
ク JAC主催の国際交流富士山登山について

(3)競技部合同委員会

1月16日(金) 出席者18名

ア 公認スポーツ指導員資格について
イ 和歌山国体の競技施設変更について
ウ 平成27年度事業計画及び収支予算案について

エ オリピック・プロジェクト委員会報告

オ IFSC ジャッジ・セッターコース講習会の開催について

カ 平成27年度委員総会について
キ クライミング日本選手権2015の主管について

ク ブロック別研修会について

ケ 第10回ボルダリング・ジャパンカップ(2/21～22)について

コ クライミング日本ユース選手権2015(3/28～29)について

サ 第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会の報告

シ ユース強化合宿(1/4～7、浜松市)の報告

ス 審判・セッター会議開催(1/31)について

セ 日本トレラン会議の報告

ソ ブロック大会不参加県への指導について

(4)自然保護委員会

1月17日(土) 出席者13名

ア 12月常任委員会議事録の確認
イ 山岳団体自然環境連絡会(12/19)報告

ウ 自然保護指導員登録促進の通知について

エ 平成27年度事業計画及び収支予算(案)について

オ 第39回自然保護委員総会について
・9/12～13、福島県磐梯青少年交流の家
カ 第5回関東地区山岳連盟自然保護交流会について

キ 自然保護委員会事業の日程の確認
ク 指導員養成出前講座について

ケ 兵セ27年度プロジェクト活動の検討について

コ ニュースレター(冬号)発行について

(5)遭難対策委員会

1月25日(日) 出席者16名

ア レスキュー講習会(積雪期)の反省
イ 平成27年度上半期事業の確認

(6)ジュニア普及委員会

1月30日(金) 出席者5名

ア 1月常務理事会報告

イ 平成27年度事業計画及び収支予算案について

ウ ジュニア・普及情報交換会(2/14、国立オリンピック記念青少年総合センター)について

エ なすかし雪遊び隊2015について
・下見・現地打ち合わせ(2/28)

オ 平成27年中高年安全登山指導者講習会について

カ 第54回全日本登山体育大会について

(7)指導委員会

2月2日(月) 出席者14名

ア 1月常任委員会議事録確認

イ 平成27年度の予算審議報告

・常任委員研修会の在り方について検討
・氷雪及び登攀技術研修会に於ける受講者と講師数の検討

・指導員養成講習会の受講条件の改定(規約改訂)

ウ 常任委員研修(1/31～2/1、土合山の家)報告(参加者10名)

エ ACとSCの日体協資格分離について

オ 主任検定員証及び証明書(カード)について

カ スタンディングアックスビレー(SAB)について

キ 競技部合同委員会報告(1/16)

・国体監督資格について

・義務研修について

ク 平成27年度指導者養成講習会アンケート(12件)について

ケ 指導者認定申請について

※前記、4.報告(2)指導員の認定承認を参照

コ 氷雪技術研修会(大山)について

・参加者8名、A級主任4名、上級指導員3名、講師・スタッフ9名

サ AC、SC分離のAC義務研修について

シ 指導競技合同会議について

ス 平成27年度事業計画の内容及び日程確認

6. その他の重要事項

(1月9日～2月4日)

[報告]

(1)森を走ろうシンポジウム2015

1月11日(日) 於:立正大学大崎キャンパス5号館 八木原副会長

(2)全国「山の日」運営委員会 1月13日(火) 於:弘済会館 尾形専務理事

(3)アマチュアスポーツ新春懇親会

1月14日(水) 於:NHK本館22階

神崎会長、尾形専務理事

(4)顧問・参与会 1月17日(土)

於:アルカディア市ケ谷 神崎会長ほか(参加者29名)

(5)2015新春懇談会 1月17日(土)

於:アルカディア市ケ谷 神崎会長ほか(参加者140名)

(6)中高年安全登山指導者講習会引継ぎ会議 1月18日(日) 於:アルカディア市ケ谷 尾形専務理事、仙石・青木・瀧本常務理事

(7)第2回火山防災対策推進WG

1月19日(月) 於:中央合同庁舎8号館 尾形専務理事

(8)平成27年度予算編成会議

1月21日(水)～22日(木) 於:岸記念体育会館 尾形専務理事、小野寺常務理事、相良理事ほか

(9)レスキュー講習会 1月23日(金)～25日(日) 於:土合山の家 西内常務理事ほか

(10)東京都山岳連盟新春の集い 1月24日(土) 於:東京グランドホテル 八木原副会長

(11)関東ブロック競技研修会 1月24日(土)～25日(日) 於:埼玉 古林、佐藤、目次常任委員

(12)第4回火山情報の提供に関する検討会 1月27日(火) 於:気象庁講堂 尾形専務理事

(13)平成26年度山岳遭難対策中央競技会幹事会(第3回) 1月29日(木) 於:文部科学省16F会議室 西内常務理事、中川事務局長

(14)2014年毎日スポーツ人賞 1月29日(木) 於:セルリアンタワー 東急ホテル 尾形専務理事

(15)三役予算決裁会議 1月30日(金) 於:岸記念体育会館 八木原・國松・佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺常務理事

(16)審判・ルートセッター会議 1月31日(土) 於:岸記念体育会館 森下常務理事、北山・山本各委員長ほか

(17)日本山岳写真協会新年会 2月1日(日) 於:ルートイン東京・東陽町 八木原副会長

(18)強化選手JOC表敬(2014年成果報告) 2月3日(火) 於:JOC 尾形専務理事、小野寺・森下常務理事、野口啓代・尾上彩選手、平山裕示

編集後記

全国「山の日」フォーラムが本紙掲載通り、3月28日～29日に東京国際フォーラムで開催される。本協会でも2018年8月11日祝日法施行に合わせ、国民参加のイベント企画を検討中です。これぞというアイデアがあれば事務局へ提案していただき「山の日」の祝日を一緒に考えましょう。

(広報担当 水島彰治)

登山月報 第552号

定価 110円(送料別)

予約年間 1,300円(送料共)

昭和45年12月12日

第三種郵便物認可

(毎月一回15日発行)

発行日 平成27年3月15日

発行者 東京都渋谷区神南1-1-1

岸記念体育会館内

公益社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396

FAX 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和四峠「峠の茶屋」TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

○北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会

○陣馬山トレイルレース実行委員会

○八重山トレイルレース実行委員会

○東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

山岳
雑誌

岳人

山と人、
時代をつなぐ
「岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、“岳”を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

年間購読がおすすりめです。

購読割引

送料無料

限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格1冊

680円

(税込734円)

年間購読12冊

7,480円

(税込8,078円)

12冊 8,160円
のところ
▶680円おトク!

年間購読
特典



岳人オリジナル
マグカップを
プレゼント!

「岳人」4月号

【特集】春の山を楽しむ

【好評連載】夢枕 獺「神々の山嶺」創作ノート
／フリチョフ・ナンセン「グリーンランド初横断」
／石川直樹「まれびと」／秘境探訪 ほか

4月号
3/14発売

★モンベルのウェブ
サイト、全国のモン
ベルストアや書店
にて発売中!

年間購読
お申し込み方法

●ウェブサイトで
<http://www.gakujin.jp>

●お電話で(受付後に振込用紙をお送りします)
☎ 0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

●全国のモンベルストアで
<http://store.montbell.jp>

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



安心を売る仕事。

嵐の日でも 晴れの日も。
つらいときも うれしいときも。
わたしはあなたを見守っています。

わたしがあなたに
売っているのは「安心」です。

安心できれば挑戦できます。
だからあなたは
夢に向かって
進みつづけてください。

どんなことが起きても
わたしはあなたの味方です。

MS 私は
agency 三井住友海上の
代理店です。

www.ms-ins.com

山岳保険の加入は 登山者のマナーです。

あなたの山岳保険は、大丈夫ですか？

■平成25年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成26年6月12日)

発生件数 **2,172**件 (前年対比 184件増)

遭難者数 **2,713**人 (前年対比 248人増)

死者・行方不明者 **320**人 (前年対比 36人増)

詳しくは → <http://www.sangakukyousai.com>

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp
U R L : <http://sangakukyousai.com>